

希学園 第413回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第413回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年10月11日実施)	https://vimeo.com/1234295512/d25f54ba79

1

絵にする¹と²
A ウ²
B イ²
C ア²

(2 完答)

ア³
ー文字⁴ずつ⁵
(記述題)

情報⁶の処理⁶が⁶し⁶や⁶す⁶い⁶

エ⁷
イ⁸
少なく⁹

ア¹⁰
ウ¹⁰
ア¹⁰

固¹¹有¹¹
交¹¹
利¹¹点¹¹

2

相¹談¹
大¹昔¹
拾¹

才²
エ²
ア²
別³に³早³く³着³

学⁴校⁴に⁴着⁴く⁴
(記述題)
イ⁶

右⁷の⁷道⁷に⁷行⁷
正⁸し⁸

エ⁹
イ¹⁰
ア¹¹

1

一⁵目⁵で⁵情⁵報⁵が⁵読⁵み⁵取⁵れ⁵印⁵象⁵に⁵残⁵り⁵や⁵す⁵い⁵
絵⁵に⁵し⁵て⁵お⁵く⁵と、
から。

(同意可)

2

よ⁵う⁵や⁵
う⁵ら⁵り⁵
な⁵や⁵た⁵
気⁵ま⁵い⁵
が⁵し⁵こ⁵
し⁵く⁵と⁵
た⁵、⁵を⁵
か⁵置⁵見⁵
ら⁵い⁵つ⁵
。て⁵け⁵
い⁵た⁵
か⁵サ⁵
れ⁵リ⁵
る⁵が⁵

(同意可)

配 点		
1	10・11	2
1	5	2
その他		
100点		

① (竹内薫『中高生の悩みを「理系センス」で解決する40のヒント』より)

1 直後の一文の後半に「内容を絵にしておく」と調子よくしゃべることができた」と書かれている。筆者が気づいたことはこれだが、字数が合わないで同じような意味のことが書かれているところをさがす。「絵」「しゃべる」といったことばに注意を払う。

2 【A】の直後は「絵でメモをする」の例になっている。【B】は「1文字ずつ……処理しなければ」ならないので「瞬時に読み取るのが難しい」という流れになっている。【C】は、「線を引く」やり方と「絵にする」やり方をくらべているところである。

3 空らんには「絵にするとしゃべりやすくなる」理由が入る。「絵にする」と「文章を覚える」の対比を意識して読むと、直後で語られている「文章を覚える」やり方の難しさが参考になる。「絵にする」と、その難しさがなくなるから、しゃべりやすいのである。

4 内容的には直後の一文が参考になる。「瞬間瞬間に情報を頭に入れて」の部分である。これと似たような内容が前の段落にある。

5 —線④の一文をふまえ、「線を引く」と「絵にしてみる」との対比を確認する。「線を引く」ことのよくない点は、裏返せばそのまま「絵にする」ことのよさとなる。三行後からの具体例を見ると、「さらに」の前に「話題がひと目でわかる」という内容が、「さらに」の段落から「内容が頭に入り」という表現が見つかる。

6 直後の文は「ピクトグラム」がなぜわかりやすいかの説明になっているが、文前半の「……ため」までが理由の説明で、文後半の「……やすい」は「わかりやすい」の言い換えである。

7 —線⑥の「その意味するところ」つまり、「災い」の辞書的な意味は、「災害・事故・病気など、人に不幸をもたらす出来事」であるが、これが言語化できる必要はない。大切なのは、「火事」や「災害」に限らないということである。「そこ(＝災)」に含まれている「火」という文字の印象などから「その意味が「浮かび上がる」のは、連想の働きによるものだろうと見当をつけることができる。

8 —線⑦をふくむ一文に「漢字という『絵』」という表現がふくまれているが、この意味をまずはっきりさせておきたい。漢字の話は★の段落からはじまっており、たどっていくと、「形や概念を表した図が簡略化されてきたもの」という説明が見つかる。

9 通読時に違和感を抱くことができれば理想的だが、そう簡単ではない。ただ、問いに「反対の意味の語」とあるので、はっきりした対義語を持つ語をチェックしていくことはできるだろう。

10 Xは、話題を示す働きをする「が」である。イは逆接の意味を持ち、ウは主語を示している。Yは、補助動詞とよばれている。「……ておく／……でおく」のような形になる。アの「話し合う」は複合動詞とよばれ、もとは二つの単語だが合体して一語になっていると考える。Zは尊敬である。主語が「養老孟司さんは」であることに注意しよう。イは可能、ウは受け身である。

11 a「固有」の「固」を「個」としないように気をつけたい。b「交」は、区別できるようなまじり方のときに用いる。「混」とのちがいに気をつけたい。c「利点」の「利」を「理」としないように気をつける。

② (大島恵真『後ろで光っているもの』より)

1 a「相談」の「相」に「心」をつけないこと。b「大昔」は「昔」の字形に気をつける。c「捨」は「捨」と混同しないこと。

2 Xの「ぎくしゃく」は、関係が平静でなくなっているようす。Yの「ふっと」は「ふと」と同じで、「前ぶれなく」「何となく」起こるようすを表す。Zの「あつげにとられて」は、驚いてぼんやりするようすを表す。

3 すぐに過去の場面へとさかのぼってしまうので、★から始まる過去の場面の後をさがす必要がある。「学校に着くと」以降で、「右」ということばが出てくるところをチェックしていく。

4 ★の部分は「きのう」ということばで始まっているが、しばらく進むと「おととい」ということばが出てくる、そこよりさらに後ろということになる。「学校に着くと」で、冒頭の場面が通学途中の場面であったことがわかる。

5 物語全体が「サリ」の視点で書かれているので、ミオの心中はミオ自身が語っているところからさがすしかない。会話をチェックし、「そんなことを考えられるサリがうらやましかったんだ。自分が置いていかれるような気がした」の部分を使えばよいが、その際「そんなこと」の処理が問題となる。「子ども声優オーディション」をさしているが、ミオ自身がオーディションを受けたわけではないので別の表現にしたい。使えることばがないか会話をたどっていくと「ミオもミオのやりたいこと、やろうよ」が見つかる。

6 問いに「その結果」とあることに注意する。「呼びかけてくる」ことばの直後まで読んで答えを決めよう。

7 —線④はミオのことばだが、問いはサリの考えをきいていることに注意する。この会話の流れをたどっていくと答えが見つかる。

8 直前の文からひとまとまりで理解しよう。「遅くなったのは私のせい」であって、「光るもの」のせいではない。なぜなら「光るものは⑤い」から、ということになる。

9 「「めんなさい！」と謝ったミオの気持ちである。

10 直後に「光るものを投げるように」とあることに注意する。「光るもの」に左右されることをやめようとしているのである。

11 「光るもの」を必要としなくなったのだから、イヤウはありえない。またエのような楽観的な話でもない。